

「もの忘れ外来について」

星ヶ丘医療センターもの忘れ外来 医師 森 敏

この動画では、「もの忘れ外来」の実際の診療の流れをご紹介します。

①



【もの忘れ外来とは】

もの忘れ外来は、かかりつけ医から照会を受け、認知症が疑われる患者様の診断と治療を行います。

認知症には、さまざまなタイプがあり、病型によって予後や治療法が異なるため、これらを鑑別(かんべつ)する必要があります。

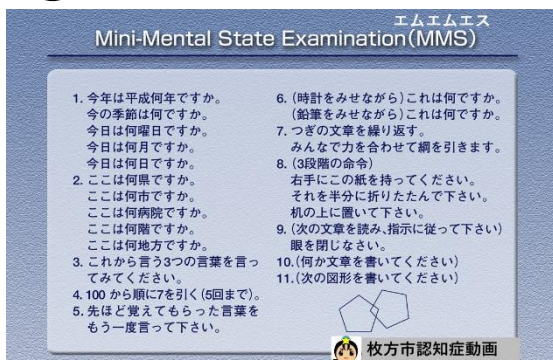
②



【診療の流れ】

もの忘れ外来を受診する前に、あらかじめご家族の方に患者様の状況を問診票に記入していただき、初診日に持参していただきます。

③

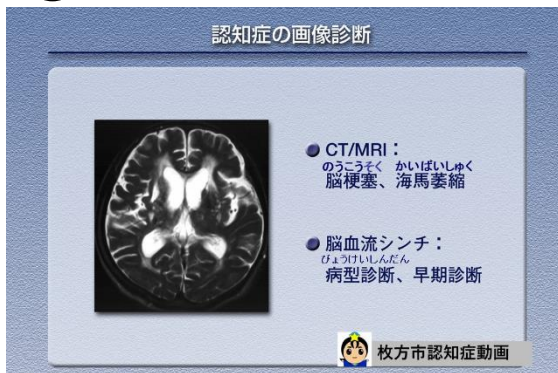


【検査：MMS(エムエムエス)】

診察室では、問診・診察を行った後、MMSEという簡単な認知機能検査を実施します。

これは30点満点のテストで、23点以下の場合に認知症が疑われます。

④

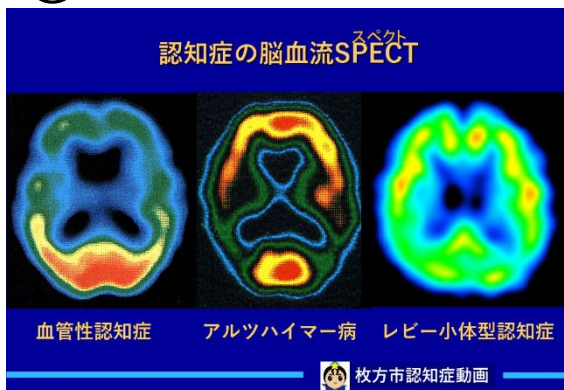


【検査：画像診断】

次に、脳CTなどを撮影します。

脳梗塞などの血管に異常はないか、記憶の中
枢である海馬(かいば)や扁桃体(へんとうたい)
が萎縮(いしゆく)していないかなど、認知症を
引き起こす病変を確認します。

⑤



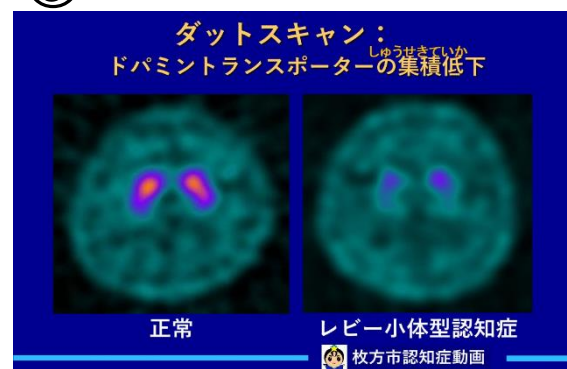
【検査：脳血流 SPECT (スペクト)】

上記の検査で認知症が疑われた場合は、脳血
流 SPECT で精密検査をします。

血管性認知症では前方部、アルツハイマー型
認知症では後方部の血流が低下します。

レビー小体型認知症では、血管性認知症、ア
ルツハイマー型認知症では保たれている後頭部
においても、血流が低下します。

⑥



【検査：ダットスキャン】

レビー小体型認知症が疑われる例では、ダッ
トスキャンという検査が追加されることがあり
ます。

健常者では、向かい合う勾玉の様な形が見ら
れますが、本病型では、形が見られにくい状態
になっています。

このような一連の検査で診断名、治療薬や診療方針が決まれば、照会元に戻り、
治療を継続します。